



千八百七十九年八月九日刊行横濱「デマツパン、メイル」新聞抄譯  
日本國債論  
國債紙幣償還方法ノ事

大藏省  
翻譯課

4175



114  
A2440



大正十一年四月  
隈侯爵郵局

鬼頭愔二郎 譯

社説譯

日本國債論

八百七十九年八月九日刊行横濱チヤッパン、メイ、ル新聞

余輩が今東京列冊、ニ新聞ヨリ本号、メイ、ル新聞紙上ニ再出ス  
 ル國債銷還ノ方法、維新以來政府負フ所ノ内外國債最始發行  
 ノ事由及ヒ其制限ヲ提記スルモノニシテ、實ニ一大緊要ノ方  
 案ナリトス。試ミニ之レヲ一日セバ、其計算ヲ組立ツルニ於テ、大  
 藏省ガ此事ニ致々、逆事セシ、成績ト適任ノ士カ、其科目ヲ区分ス  
 ルノ任ニ應セシ、實效ノ、減少ナラガルトヲ証スルニ足レリ夫レ  
 然リ然リト、重臣原ト此銷還ノ方法タルヲ、其效ヲ奏スルト否ト  
 ハ、向後二十六ヶ年間、國家ノ和乱、政府儉奢ノ如何ニ、是レ、概ルモ  
 ノナレハ、國ヨリ資金ヲ得ルノ源流、確實ナラガルモノ而已多シ

トスレバ其方法ノ画餅ニ帰スルコトナク果シテ実行ヲ奏スル  
 アルヲ預期スベカラス然ル上ハ日本ハ千九百五年ニ至リ其國  
 債ヲ悉ク銷還シテ無債ノ邦國トナリ實ニ今本号ニ掲スル銷  
 還方法ノ末章ニ前言セルガ如キ幸福ノ位置ヲ占ムルニ至ルヲ  
 豫期スベカラス然リトモ免ニ角政府勤儉ノ意アルヲ見ルハ  
 公衆ニ取リ實ニ至大緊要ノ件ナリ又政府果シテ勤儉ヲ行  
 ラバ目下負フ所ノ國債ハ向後二十六年間歳入残剩ヲ超越セ  
 ガルヲ知ルハ是レ亦公衆ニ取リテ頗フル至要ノコトナリトス  
 夫レ然リ然リトモ免今世ニ公布セラレタル銷還方法ニシテ果  
 シテ充分ニ效ヲ奏セザルアラバ我輩ハ其時コソ日本ノ國勢ニ  
 付日亦ハ最早是レギリノ國ト實ニ最後ノ歎ヲ發言シテ止ム而已  
 況ンヤ其債還ヲ完結センガ為メニ亦新ニ國債ヲ募集スルコトヲ  
 要用ニスルゴノコトアルニ於テヤ蓋シ外國人中或ハ云ハン凡

ソ河レノ邦國タルヲ同ハス其國ニ國債ノ在ルハ其國ニ取リ平  
 素正ムコトナキノ災害ナリト  
 過日發布ノ當會計年々豫算昏中表上セル如ク現ニ千八百七十  
 九年六月三十日調日本内外國債ノ總高ハ三億七千九百二十五  
 万三百五十六圓ニシテ其科目ハ即チ左記ノ如シ

旧公債	九百六十五万九千貳百六十圓
新公債 <small>四録 利付</small>	千百五十九万四千貳百五十圓
金札引換公債	二百一十萬五千九百九十一圓
秩祿公債 <small>八録 利付</small>	千六百十九萬六千三百七十九圓
金祿公債 <small>自五録 至七録</small>	七億七千四百貳十萬九千九百十九圓
起業公債 <small>六録 利付</small>	七千貳百五十萬圓
旧神官配当祿公債 <small>八録 利付</small>	四十二萬三千三百二十五圓
証討費借入	千五百万圓

以上内国債合計 貳億四千六百九十九万九千七百七十五圓

右ノ外ニ

外国旧債 九銖 利付 百九十五万二千圓

外国新債 七銖 利付 千〇六十七万二千〇七十二圓

紙幣流通高 壹億二千〇九十二万七千二百〇九圓

以上内外国債并ニ紙幣流通高ヲ合シテ總額三億七千九百一十

五万三百五十六圓ナリトス

今大藏卿ヨリ祭布セシ銷還方法ニ由レバ前各諸種ノ公債ノ左

記ノ如ク陸統具銷還ヲ終ルモノトス乃チ外国旧債ハ千八百

十一年ニ秩祿公債ハ千八百八十三年ニ旧神官配当祿ハ千八百

八十六年ニ金札引換公債ハ千八百八十八年ニ四銖内国債外国

新債并ニ征討費ノ三種ハ總テ千八百九十六年ニ至リテ悉皆償

還主ルモノトス

又主祿公債ハ千九百一年ニ起業公債ハ千九百二年ニ償還シ最

後ニ至リ旧内国債并ニ紙幣ノ二種トモ千九百五年ヲ以テ償還

ヲ終ルモノトスサレニ其後ハ所謂「リニユ」ム子(リ)ニユ

ムトハ千年ト云フ意義ニシテ千年ノ間ニ世界ノ惡魔降伏シテ

全ク神聖ノ世トナリ耶蘇諸神ヲ使フテ親ラ世ヲ治ルト云フ説

ナリ

大藏卿ガ制定セシ銷還方法ニ依レバ前各ノ年間ニ国債ノ銷還

ヲ実行セントスルニハ實ニ六億貳千六百三十六万三千七百

巨額ヲ要スルヲ顯然タリ然ルニ右ノ六億貳千六百三十六万三

千七百圓ノ内五億六千五百六十二万四千二百九十圓ハ毎年歳入

ノ中ヨリ別ニ凡ソ貳千万圓ツ、ヲ割キテ其銷還ニ充ルヲ豫

定セリ是レ已ニ過ルニケ年間ニアリテ豫算各中ニ国債銷還ノ

為メニ毎ニ貳千万圓ツ、ヲ其資金ニ充ル旨ヲ表上セシモノナ

過日發布ノ豫算表ヲ一読セバ此百千万圓ノ残剩金ハ若シ歳入  
科目ノ中上三科目ノ増加スルモノ勿リセバ當會計年度ノ豫算  
昏中ニ此百千万圓ノ残剩額ヲ見ルアタハガリレヤ明ラカナリ  
又本年度ノ陸軍省定額金ニ於ケルガ如ク苟モ歳出費ヲ増ス  
ヲ要用トスルヲアラバ此二千万圓ノ残剩金ハ之レヲ租税ノ中  
ニ就テ二三種ヲ増加スルニアラガレバ他ニ支出ノ途ナキヤ一  
目前文ノ如ク夫レ然リ然ラバ毎年ノ残剩金百千万圓ハ稍不定  
ノ源流ヨリスルモノト勘考スルコリ要用ナレ然レモ亦已ニ發  
布ニ至リタル豫算ニ依レバ此残剩金ハ實ニ確實ノ源流ヨリス  
ルヲ顯然ナレバ向後一十六ヶ年間ニ残剩金ナルモノ、永続シ  
能ハガルガ如キノ災害アルヲ豫期セガルベシ唯我輩ハ切ニ望  
ム此事ノ方々実効ヲ奏センコト

大藏卿ガ斯ノ如ク毎年ノ残剩金ヲ償還ノ用途ニ供スルノ外ニ  
猶ホ凡ソ六千万圓ヲ此用途ニ供シテ以テ其償還資金ノ不足ニ  
充テントス然ルニ熟ニ大藏卿ガ豫期スル此六千万圓ノ源流ニ  
付テ視察セバ此源流ハ恐ラク人々ノ満足スベキモノナラズ請  
フ逐一之レヲ述ベシ其源流タル先ツ第一ハ準備金ヨリシ第二  
ハ開拓使貸付金返納ヨリスルモノナレバ我輩ガ視察スル所ニ  
依レバ両ツナガラ是レ確實ノ源流ト視察スベカラズ  
扱又準備基金ハソノ實只勘定ハ一科目ニ過キガルト昭々リ  
ト雖モ暫ラク其基金ヲレテ現實ニ貨幣ヲ準備セルモノト見做  
スモ不可ナシ又開拓使ノ如キハ其最前借受ケタル金額ヲ返納  
シ得ルトナスモ得ガルトナスモ不可ナシ免ニ角此ボノ源流ハ  
今般發布ニ至リタル銷還ノ方法中ニ在リテ軟弱ナル源流ナリ  
トス然ル具最モ強堅ナル源流ハ來ル二十六ヶ年間ニ政府ノ

儉奢如何、國家ノ和乱如何ニ是レ扱ルモノニシテ實ニ不定ノ將  
来ニ依頼スルヲモ併セテ知ル時ハ(政府ガ此銷還ノ方法ヲ實  
行スル固ヨリ疑ヲ容レス且ツ吾輩ハ此舉ノ实效ヲ奏セシメ  
切ニ望ムトハ在氏)此方法ノ果シテ实效ヲ奏スベキヲ豫期ス  
ニキ権理ヲ有セザルモノト心得ザルベカラズ

